テーマ２：健康づくり推進委員について

宮古島市においては、健康づくり推進委員の活動を通して、住民のニーズがよりわかるようになった。特に問題点としては、自動車保有率が高いため、運動不足がある。従来、この健康づくり推進委員の育成の役割は保健師が担っていたが、専属の健康運動実践指導者が配属されてからは、定例会も月１回開催され、活動が活発になっている。

テーマ３：特定健診・保健指導および国保保健事業について

宮古島市においては、特定健診の受診券は6月に発送したが、受診券がどれだけの人に配られているかは把握できていない。忘れた人に仮受診券を発行するなどの対応をした。42日の集団健診と17の医療機関での個別健診を実施した。

多良間村においては、特定健診受診率は59.4%である。指導するスタッフ（栄養士、運動導士等）がいないため、特定健診対象者をどのように指導していくか今後の課題である。受診券は配布せずに受診しにきた人に直接受診券を配布し、全村民が健診を受診できる体制を優先にしたため、受診率の上昇につながった。

また、広報撮り（調理実習の模様）の見学があり、宮古島で採れる食材の方言名を交えた説明等といった食生活改善推進員の活動が紹介された（写真１，２）。サロンでの体操を体験することで健康づくり推進員の活動を周知する（写真３）。

D．考察

宮古島市では住民のネットワークが強く事業の協力を得やすい反面、ネットワークがありすぎて介入しづらいこともある。また、島という他の文化などが入りにくい環境であるため、悪いことは悪い方向へ、良いことは良い方向へと影響を受けやすい。そのような環境の中で、住民組織が住民をよりよい方向へ先導していく役割は大きい。沖縄県は長寿県復活に向けて「沖縄版食生活バランスガイド」を作成するなど様々な先駆的な取り組みを行っており、基盤は整っていることから、今後はその普及および浸透に向けた効率的な戦略が求められる。

E.結論

宮古地域においては、健康事業の推進として若い世代への健康事業の呼びかけが重要であるといったことから、相互扶助（ユイマール）による地域の結び付き、さらに若い世代を含む地区組織の活動が活発であるといった環境等での健康づくり事業の展開を試みている。民間の保健医療福祉産業の少ない離島地域で事業展開を図る上では、今後、このような環境整備のあり方が重要となってくると考えられる。

F．健康危険情報

な　し

G．研究発表

な　し

H．知的財産権の出願・登録状況

な　し

I.研究協力者

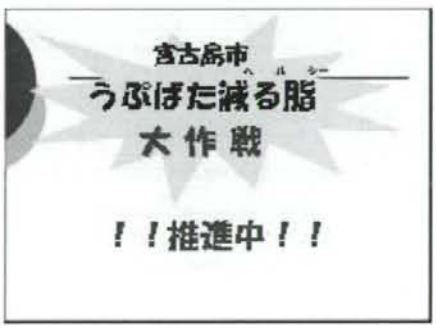
宮川耀子　宮古福祉保健所健康推進班
主任歯科医師

写真１

写真２

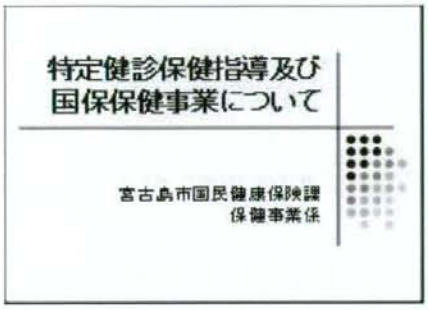
写真３

スライドＩ



スライドⅡ

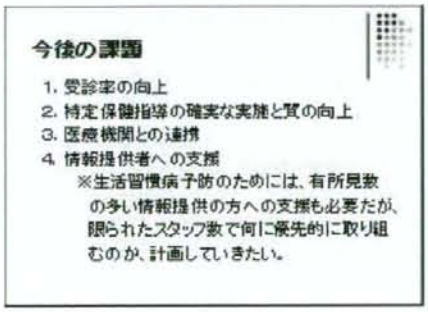
スライドⅢ



階層別人数-有所見項目

※データのそろっている2,578人で集計

階層	総数	1位	2位	3位
情報提供で治療なしの方	900人	LDL (451人)	最高血圧 (362人)	HbA1c (300人)
どうき付け	394人	最高血圧 (300人)	LDL (235人)	HbA1c (116人)
積極的	188人	最高血圧 (147人)	中性脂肪 (123人)	HbA1c LDL (116人)



今後の課題

1. 受診率の向上
2. 特定保健指導の確実な実施と質の向上
3. 医療機関との連携
4. 情報提供者への支援

※生活習慣病予防のためには、有所見数の多い情報提供の方への支援も必要だが、限られたスタッフ数で何に優先的に取り組むのか、計画していきたい。

厚生科学研究費補助金（循環器疾患等生活習慣病対策総合研究事業）
分担研究報告書

離島・農村地域における生活習慣病対策の環境整備とその評価に関する研究
－沖縄県離島での対策の実施と評価－

研究分担者　岡田克俊　愛媛大学総合健康センター准教授

研究要旨

沖縄県宮古島市および多良間村を含む地区を中心として、生活習慣及びその社会的環境について、これまでの対策を元にした評価を行い、今後の生活習慣病対策の環境整備の課題について検討を行った。

その結果、若い世代における食生活習慣及び運動習慣の問題が認められるものの、一方で、住民同士の結びつきが強く、また若い世代を含む地区組織の活動が活発であることから、これらの人・組織を健康推進事業に巻き込むことにより活発な健康づくりに取り組めていた。このような健康推進のあり方は、民間の保健医療福祉産業の少ない離島・僻地での重要な方法であると思われた。

A．研究目的

沖縄県の離島である宮古地域住民の環境要因・生活習慣の現状を把握し、また他地域との比較により、離島地域における生活習慣病対策を行うために必要な環境整備を提言する。

B．研究方法

1．対象

沖縄県宮古島市を中心に本分担研究の対象地区とした。宮越の人口は、53,480 人(2005 年度国勢調査)、65 歳以上の者の割合は21.0%である。

対象地域の２次医療圏は宮古地域保健医療圏に属し、管轄保健所は沖縄県宮古福祉保健所である。

2．方法

(1)研究班共通アンケートによる生活意識調査

研究班での共通アンケートを用い、宮古島市と他の分担研究班の地区との生活及び健康意識の違いについて、若い世代(49 歳以下)と 50 歳以上とに分けて評価を行った。

(2)地域での研修会議に基づく記述調査

研究地域の生活習慣病対策を行っている実務者を交えた研修会において、環境整備上の課題などのインタビューに基づいて評価を行った。

（倫理面への配慮）

アンケートは調査の趣旨を書面にて説明した上で、趣旨に同意した者のみの回答を無記名で回収し、特定の個人を識別できる情報の収集を行わないように配慮した。

C．研究結果

(1)研究班共通アンケートによる生活意識調査

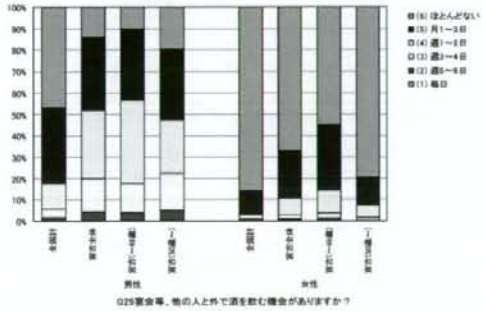
社会的なサポートのうち、互助的なサポート

Q33困ったときや助けが必要なときに、力になってくれる人がいると思いますか？

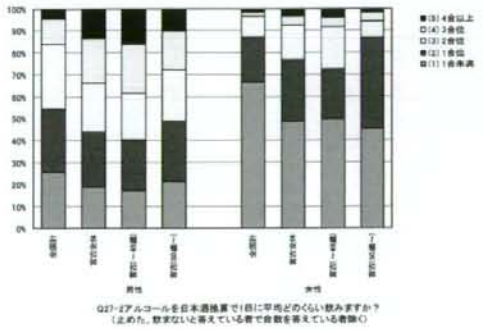
	人数					%				
	(1) 大いに思う	(2) 思う	(3) あまり思わない	(4) 全く思わない	計	(1) 大いに思う	(2) 思う	(3) あまり思わない	(4) 全く思わない	計
男性 全国計	368	1489	517	74	2448	15.0%	60.8%	21.1%	3.0%	100.0%
宮古全体	119	290	66	9	484	24.6%	59.9%	13.6%	1.9%	100.0%
宮古(～49歳)	55	167	37	3	262	21.0%	63.7%	14.1%	1.1%	100.0%
宮古(50歳～)	64	123	29	6	222	28.8%	55.4%	13.1%	2.7%	100.0%
女性 全国計	687	1832	360	38	2917	23.6%	62.8%	12.3%	1.3%	100.0%
宮古全体	206	256	32	6	500	41.2%	51.2%	6.4%	1.2%	100.0%
宮古(～49歳)	98	125	17	5	245	40.0%	51.0%	6.9%	2.0%	100.0%
宮古(50歳～)	108	131	15	1	255	42.4%	51.4%	5.9%	0.4%	100.0%

の観点から、困ったときに力になってくれる人がいると思いますかとの問いに対して(表Q33)、大いに思うと回答した者の割合が、男性全体で24.6%、女性全体で 41.2%と、他の地区と比較し 1.5～2 倍程度高く、特に女性では 49 歳未満及び 50 歳以上の群のいずれにおいても 40%を超えていた。

また、地域社会における人間関係の状況の一つとして、図 Q29 に示す通り、宴会等、他の人と外で酒を飲む機会がありますかとの問いに対して、男性では週 1 日以上あると回答した割合が 52.2%と全国の 17.8%と比べて極めて高かった。一方、女性では年代別の差が大きく、週 1 日以上外で飲む機会がある者は 49 歳までの群の 14.1%に認められたが、50 歳以上の群では約半分の 7.2%であった。なお、いずれの年齢においても男性と同様に全国の 2.9%と比べて約 2.5 倍以上の頻度であった。



また、全体的な飲酒量について図 Q27-2 に示す。全国と比べて男女とも宮古の飲酒量は多く、4 合/日以上飲むと回答した者の割合は宮古男性の 13.5%であり、全国の 4.6%と比べ高かった。また特に 49 歳までの群ではさらに高く 16.1%となっていた。



(2)地域での研修会議に基づく記述調査

若い世代が健康推進事業に興味を持ち、参加できるような方策として、特に若い男性の肥満・健康問題を改善することを目的として、青年会議所の方に健康増進計画推進委員会に参加して頂くなどの働きかけを行っていた。さらに田園地域マルチメディアモデル整備事業で整備された行政チャンネルテレビ放送を用い各委員が出演するなどの演出を行った結果、地区視聴者の身近な人が上映されることによる話題提供及び動機付けの効果が認められている。また、当該地域では若い世代の団結力が強く、様々なイベントを通して組織化が進んでおり、これらの活動を基盤として青年団などの若い層に保健事業に参入してもらうことは比較的容易だと思われた。

一方、行政的立場からは、健康づくり推進委員の活動や月に 1 回の定例会等を通じて住民のニーズがより分かり易いすいようになっているとの意見があった。さらに、専属の健康運動実践指導者が 1 名配属されてからは、保健師が兼任で担当するよりも運動指導などが活発化されたとの報告があった。

D．考察

昨年度までの報告と合わせ、宮古地区においては、特に若い世代の食生活及び運動習慣に問題があることが明らかとなっている。一方、これらの改善のための健康事業の推進の方策として、地区の特性を生かした推進も重要な方法と考えられる。すなわち、同地区では困ったときや助けが必要なときに力になってくれる人が多い、また生活習慣の一部として、他の人と飲酒する機会が多いなど、地域の住民のつながりが強く、さらに若い世代の地区組織などの活動も比較的活発であることが認められており、このような地区では地区組織を利用した健康行動への動機付け及び支援の取り組みが可能であり、実際に行われていることが明らかとなった。これらの方法は、都市化が進む地域では既存の地

区組織が少ないもしくは活動が低下しているなどの場合には限界があるが、離島・僻地では極めて有効な方法であると考えられる。

E．結論

当該地域は住民組織などが活発であり、この組織を利用した健康行動への動機付け及び支援の取り組みが実践されていたことから、住民組織が既に確立している地区においては、既存の組織を取り込んだ対策が有用であると考えられる。

F．健康危険情報

な　し

G．研究発表

岡田克俊　メタボリックシンドロームと脳卒中発症との関連　日本公衆衛生学会(2006/10)

H．知的財産権の出願・登録状況

な　し

I.研究協力者

佐伯修一　愛媛大学総合健康センター長・教授
楠元克徳　愛媛大学総合健康センター准教授
片山佳子　愛媛大学総合健康センター事務補佐
松下真弓　愛媛大学総合健康センター研究補助

Ⅲ．研究成果の刊行に関する一覧表

書籍

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書　籍　名	出版社名	出版地	出版年	ページ
なし							

雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Iso H	Changes in coronary heart disease risk among Japanese.	Circulation	118	2725-2729	2008
Chei CL, Yamagishi K, Tanigawa T, Kitamura A, Imano H, Kiyama M, Sato	Metabolic syndrome and the risk of ischemic heart disease and stroke among middle-aged Japanese	Hypertens Res	31	1887-1894	2008
Kato Y, Ikehara S, Maruyama K, Inagawa M, Oshima M, Yokota K, Yamazaki T, Kishi M, Murai S, Umesawa M, Ma E, Yamagishi K, Tanigawa T, Kurokawa M, Sato S, Shimamoto T, Iso H. S, Shimamoto T,	Trends in dietary intakes of vitamins A, C and E among Japanese men and women from 1974 to 2001	Public Health Nutr	14	1-8	2008
Maruyama K, Sato S, Ohira T, Maeda K, Noda H, Kubota Y, Nishimura S, Kitamura A, Kiyama M, Okada T, Imano H, Nakamura M, Ishikawa Y, Kurokawa M, Sasaki S, Iso H.	The joint impact on being overweight of self reported behaviours of eating quickly and eating until full: cross sectional survey	BMJ	In press		

Chei CL, Iso H, Yamagishi K, Tanigawa T, Cui R, Imano H, Kiyama M, Kitamura A, Sato S, Shimamoto T.	Body fat distribution and the risk of hypertension and diabetes among Japanese men and women	Hypertens Res	31	851-857	2008
Kitamura A, Sato S, Kiyama M, Imano H, Iso H, Okada T, Ohira T, Tanigawa T, Yamagishi K, Nakamura M, Konishi M, Shimamoto T, Iida M, Komachi Y	Trends in the Incidence of coronary heart disease and stroke and their risk factors in Japan, 1964 to 2003: The Akita-Osaka Study	J Am Coll Cardiol	52	71-79	2008

Ⅳ. 研究成果の刊行物・別刷

1) Iso H. Changes in coronary heart disease risk among Japanese. ***Circulation***. 2008;118:2725-2729.

2) Chei CL, Yamagishi K, Tanigawa T, Kitamura A, Imano H, Kiyama M, Sato S, Iso H. Metabolic syndrome and the risk of ischemic heart disease and stroke among middle-aged Japanese. ***Hypertens Res***. 2008;31:1887-1894

3) Kato Y, Ikehara S, Maruyama K, Inagawa M, Oshima M, Yokota K, Yamazaki T, Kishi M, Murai S, Umesawa M, Ma E, Yamagishi K, Tanigawa T, Kurokawa M, Sato S, Shimamoto T, Iso H. Trends in dietary intakes of vitamins A, C and E among Japanese men and women from 1974 to 2001. ***Public Health Nutr***. 2008;14:1-8.

4) Maruyama K, Sato S, Ohira T, Maeda K, Noda H, Kubota Y, Nishimura S, Kitamura A, Kiyama M, Okada T, Imano H, Nakamura M, Ishikawa Y, Kurokawa M, Sasaki S, Iso H. The joint impact on being overweight of self reported behaviours of eating quickly and eating until full: cross sectional survey. ***BMJ***. 2008 (in press)

5) Chei CL, Iso H, Yamagishi K, Tanigawa T, Cui R, Imano H, Kiyama M, Kitamura A, Sato S, Shimamoto T. Body fat distribution and the risk of hypertension and diabetes among Japanese men and women. ***Hypertens Res***. 2008;31:851-857.

6) Kitamura A, Sato S, Kiyama M, Imano H, Iso H, Okada T, Ohira T, Tanigawa T, Yamagishi K, Nakamura M, Konishi M, Shimamoto T, Iida M, Komachi Y. Trends in the incidence of coronary heart disease and stroke and their risk factors in Japan, 1964 to 2003: The Akita-Osaka Study. ***J Am Coll Cardiol*** 2008;52: 71-79.

Changes in Coronary Heart Disease Risk Among Japanese

Hiroyasu Iso, MD

Heart disease is the second most prominent cause of mortality in Japan, and coronary heart disease (CHD) accounts for approximately half of heart disease–related deaths.[1] The CHD mortality rate in Japan has been one-third to one-fifth that in the United States,[1–5] even when validated fatal CHD and sudden cardiac deaths were compared.[3–5] However, there is growing concern about a possible increase in the incidence of and mortality from CHD because of the westernization of lifestyles such as high-fat diets and sedentary work patterns associated with socioeconomic development since the 1960s.[6–11]

The present report reviews original articles on population-based surveys of the mortality, incidence, and risk factors of CHD. It focuses on their trends since the 1960s because Japan has experienced rapid changes in lifestyles and environment accompanying socioeconomic development and maturation.

Methods

To identify the relevant literature, PubMed was searched for articles published from 1963 through June 2007. The following search key words were used: *coronary heart disease* or *coronary artery disease* or *ischemic heart disease* or *myocardial infarction*; *mortality* or *incidence* or *risk factor*; *Japan* or *Japanese*; and *epidemiology*. Bibliographies of key articles were reviewed and experts in the field were consulted to identify all of the major population-based studies.

Trends in Mortality From CHD

Age-adjusted mortality rates from CHD declined 50% for men and 65% for women between 1969 and 1992[8,9] and has continued to decline.[1,2] According to the World Health Organization database, the age-adjusted annual CHD mortality rate in 2000 was 37 per 100 000 for men and 18 per 100 000 for women, which was the lowest among developed countries.[2]

There are, however, sex, age, and regional variations in CHD mortality trends.[9] The age-adjusted CHD mortality rates declined from 57 per 100 000 in 1969 to 1970 to 27 per 100 000 in 1991 to 1992 for men 30 to 69 years of age and from 26 to 9 per 100 000 for women of the same ages.[8] The CHD mortality decline was smaller among men and women residing in the Tokyo and Osaka metropolitan areas than among those in the rest of Japan.[9] Men 30 to 49 years of age in the metropolitan areas showed no substantial change in CHD mortality (≈10 per 100 000), whereas those in the rest of Japan showed a steady decline.[9]

Trends in Incidence of CHD

There also were sex, age, and regional variations in CHD incidence trends reported from long-term population-based studies.[10–14] Those studies used the systematic case ascertainment system, consistent diagnostic criteria, and a panel of physician-epidemiologists for final diagnosis to ensure the validity of CHD surveillance. The age-adjusted incidence of CHD among male employees 40 to 59 years of age in Osaka increased from 0.4 per 1000 person-years in 1963 to 1970 to 1.5 per 1000 person-years in 1979 to 1986 and then plateaued until 1987 to 1994.[10]

More recently, Osaka male residents 40 to 69 years of age have shown a trend for CHD incidence to increase from 0.6 per 1000 person-years in 1980 to 1987 to 1.3 per 1000 person-years in 1996 to 2003.[11] Male residents in Takashima City had an increasing incidence of CHD for all ages from 0.7 per 1000 person-years in 1990 to 1992 to 1.0 per 1000 person-years in 1999 to 2001; the CHD increase was observed primarily for those 65 years of age, and information on risk factor trends was not available.[12]

However, the CHD incidence remained low and did not change materially among female residents in Osaka (≈0.4 per 1000 person-years)[11] and Takashima (≈0.3 per 1000 person-years),[12] nor did the incidence change over time among men and women 40 to 69 years of age in a rural community of Akita Prefecture (≈0.7 per 1000 person-years for men and 0.1 per 1000 person-years for women).[7,11] No significant trends in CHD incidence were observed among the Hiroshima/Nagasaki cohort between 1958 and 1984 (≈2 per 1000 person-years for men and 0.8 per 1000 person-years for women of all ages),[13] for the Hisayama cohort between 1961 and 2000 (≈2 per 1000 person-years in men and 1 per 1000 person-years in women ≥40 years of age),[14] or for residents of Okinawa between 1998 and 1991 (myocardial infarction, ≈1 per 1000 persons-years for men and 0.04 per 1000 person-years for women ≥40 years of age).[15]

Coronary Risk Factors and Their Trends

Major risk factors for CHD from cohort studies and their trends from national studies and population-based studies were reviewed. Trends for the coronary risk factors were examined by use of the same standardized methods and criteria for blood pressure, smoking, overweight, alcohol intake, and diet and by the Centers for Disease Control–National Heart, Lung, and Blood Institute Lipid Standardization Program and the US Cholesterol Reference Laboratory Network for blood lipids.[16]

Smoking and Its Trend

There was a consistent association between smoking and risk of incidence of or mortality from CHD.[13,17–21] The multivariable hazard ratio of CHD incidence or mortality for current smoking compared with never or previous smoking was ≈2 to 3 for either sex, with a dose-response relationship between the number of cigarettes smoked and the risk of CHD.

As for an effect of environmental tobacco smoke, age-adjusted CHD mortality was 30% higher for nonsmoking wives with husbands who smoked ≥20 cigarettes per day compared with those with nonsmoking husbands.[22]

The risk of CHD was generally lower for ex-smokers than current smokers,[18–20] which suggests that smoking cessation lowers risk. A recent large cohort study showed that a decline in risk of CHD after smoking cessation occurred within 2 years and reached the level for

From Public Health, Department of Social and Environmental Medicine, Osaka University Graduate School of Medicine, Osaka, Japan.
Correspondence to Hiroyasu Iso, MD, Public Health, Department of Social and Environmental Medicine, Osaka University Graduate School of Medicine, 2-2 Yamadagaoka, Suita-shi, Osaka 565-0871, Japan.
(*Circulation*. 2008;118:2725-2729.)
© 2008 American Heart Association, Inc.
Circulation is available at http://circ.ahajournals.org
DOI: 10.1161/CIRCULATIONAHA.107.750117

Downloaded from circ.ahajournals.org at Osaka University on March 26, 2009

never smokers 10 to 14 years after cessation.[23] In that study, the benefit of smoking cessation was observed similarly among the 40-to-64- and 65-to-79-year age subgroups. The benefit of smoking cessation also was confirmed for patients with a history of myocardial infarction for the prevention of subsequent cardiac events.[24]

In Japan, the prevalence of current smoking has declined from 82% in 1965% to 46% in 2005 for men ≥20 years of age, whereas that for women declined slightly from 16% in 1965% to 12% in 2005.[1,25] However, for women 20 to 29 years old, the prevalence of smoking increased from 7% in 1965 to 21% in 2005.[1,25] Population-based studies have identified similar downward trends in smoking for middle-aged men.[10,11]

High Blood Pressure and Its Trend

High blood pressure has been identified as a risk factor for CHD,[13,26,27] and both systolic and diastolic blood pressure levels were positively associated with CHD risk.[13,26] The multivariable hazard ratio of CHD incidence for high blood pressure (systolic blood pressure ≥135 mm Hg, diastolic blood pressure ≥85 mm Hg, and/or use of antihypertensive medication) was ≈2 for men and 1.5 for women.[28]

According to a national survey, mean systolic blood pressure for persons ≥30 years of age declined from 142 mm Hg in 1961 to 137 mm Hg in 2000 for men and from 141 to 132 mm Hg for women,[29] whereas changes in mean diastolic blood pressure levels were not substantial: from 82 to 83 mm Hg for men and from 81 to 78 mm Hg for women.[29] The prevalence of high blood pressure (systolic blood pressure ≥140 mm Hg and/or diastolic blood pressure ≥90 mm Hg) in 2000 was 52% for men and 40% for women ≥30 years of age.[29]

Similar blood pressure declines were observed between the 1960s and the 1990s in population-based studies of rural men and women and urban women.[11] For urban men, either residents or company employees, systolic blood pressure declined modestly between the 1960s and the 1990s, but diastolic blood pressure started to increase in the 1980s.[10,11] The prevalence of hypertension decreased, along with downward trends in mean systolic blood pressure levels.[10,11] The prevalence of antihypertensive medication use rose substantially between the 1960s and the 1970s but did not change substantially thereafter.[7,10,11]

Blood Lipids and Their Trends

High serum total cholesterol has been a risk factor for CHD.[3,13,19,28,32–34] Serum total cholesterol levels were positively associated with risk of CHD, although mean levels of total cholesterol are lower in Japan than in Western countries.[13,19,32–34] The multivariable hazard ratio of CHD mortality for high (≥220 mg/dL) compared with lower (<180 mg/dL) total cholesterol was 1.6 to 1.8 for both men and women,[19] whereas that for very high (≥260 mg/dL) compared with very low (<160 mg/dL) total cholesterol was ≈3.5 for both men and women.[33,34]

Serum high-density lipoprotein (HDL) cholesterol was inversely associated with risk of CHD.[19] Nonfasting serum triglycerides also were associated with the risk of CHD even after adjustment for HDL cholesterol and other coronary risk factors.[35]

According to a national survey, mean total serum cholesterol levels increased from 186 mg/dL in 1980 to 200 mg/dL in 2000 among men ≥30 years of age and from 191 to 208 mg/dL among women of the same age.[29] The prevalence of high total cholesterol (≥220 mg/dL) increased from 15% to 27% for men and 19% to 35% for women, and that of total cholesterol ≥260 mg/dL increased from 2% to 5% for men and from 3% to 8% for women.[29] The increase in total cholesterol levels and prevalence of high total cholesterol was observed primarily between the 1980s and the 1990s and plateaued thereafter. Mean serum HDL cholesterol levels have been higher for Japanese than for whites[36] and increased from 50 mg/dL in 1990 to 53 mg/dL in 2000 for men and from 53 to 61 mg/dL for women.[29] In addition, mean serum triglyceride levels increased between 1990 and 200 for both men and women.[29]

Similar trends in blood lipids were observed in population-based studies of men and women in rural and urban communities and of male employees in metropolitan areas between the 1960s and the 2000s[7,10,11] and in a large hospital/clinic-based study.[37] The prevalence of the use of lipid-lowering medication increased over time by up to 3% for men and 9% for women, although it was much lower than that of antihypertensive medication.[10,11]

Diabetes Mellitus and Its Trend

Non–insulin-dependent diabetes mellitus may be a risk factor for CHD, although the evidence from community-based cohort studies has been limited. The CHD incidence was twice as high for diabetics as nondiabetics.[38] The multivariable hazard ratio of CHD mortality for diabetics (casual blood glucose ≥200 mg/dL and/or history of diabetes) was ≈1.5 for men and 2.5 for women,[39] and that for diabetics (fasting glucose ≥140 mg/dL, nonfasting glucose ≥200 mg/dL, and/or on treatment) compared with nondiabetics (fasting glucose <100 mg/dL or nonfasting glucose <140 mg/dL) was ≈1.5 for men and 3.5 for women.[19]

No national survey has examined a long-term trend for the prevalence of diabetes mellitus, but the data between 1997 and 2002 showed no change for men and women ≥20 years of age.[40] According to community-based studies, the prevalence of diabetes increased from 2% to 8% in the 1980s to 6% to 13% in the 1990s among middle-aged men and from 1% to 5% in the 1980s to 3% to 9% in the 1990s among middle-aged women.[41,42]

Overweight and Its Trend

Overweight could be a risk factor for CHD, but its independent contribution to CHD risk may be minor.[43,44] Compared with persons with a body mass index (BMI) of 23.0 to 24.9 kg/m^2, the multivariable hazard ratio of CHD mortality for overweight (BMI ≥27.0 kg/m^2) was ≈2 for men and 1.5 for women.[43] As for CHD incidence, high BMI (BMI ≥30 versus 23.0 to 24.9 kg/m^2) was associated with doubling of the risk of CHD for men but not for women.[44] In that study, men who were not overweight at 20 years of age but gained ≥10 kg afterward showed double the risk of CHD compared with those with stable weight.[44]

Mean BMI and the prevalence of overweight have increased consistently among men since the 1980s but did not change among women, according to a national survey.[29,45] Mean BMI increased from 22.5 kg/m^2 in 1980 to 23.4 kg/m^2 in 2000 and the prevalence of overweight (BMI ≥25.0 kg/m^2) increased from 19% to 28% for men ≥30 years of age; the corresponding mean values and prevalence for women were from 22.8 to 22.8 kg/m^2 and 23% to 23%, respectively.[29] Population-based studies showed similar increasing trends among rural and urban men but not women between the 1960s and the 2000s.[9–11]

Alcohol Intake and Its Trend

Light to moderate alcohol intake has been associated with a 30% to 60% reduced risk of CHD compared with no intake.[46–48] Furthermore, the protection by light to moderate alcohol intake against acute myocardial infarction was found for both the presence and absence of alcohol-induced flushing.[48]

No national survey has yielded long-term trends in alcohol intake. However, a population-based study showed that the prevalence of heavy drinkers (46 g ethanol/d) declined while the prevalence of light to moderate drinkers (1 to 45 g ethanol/d) increased between the 1980s and the 1990s among both rural and urban men.[49] The prevalence of any type of drinkers was low and did not change for either rural or urban women.[49]

Fish and Soy Intakes and Their Trends

Dietary intakes of fish and soy were associated with a reduced risk of CHD incidence.[50,51] Compared with men and women with the lowest fish intake (once a week or median intake of 23 g/d) and omega-3 fatty acid intake (median intake of 0.3 g/d), the multivariable hazard ratio of CHD incidence for those with the highest versus lowest fish intake (8 times per week or median intake of 180 g/d and omega-3 fatty acid intake (median intake of 2.1) was ≈0.6 for both fish and omega-3 fatty acid intakes.[50] The multivariable hazard ratio of myocardial infarction incidence for soy intake >5 versus 0 to 2 times per week was ≈0.6; that for the highest versus the lowest quintiles of isoflavone intake was 0.4 for women, but men did not

Downloaded from circ.ahajournals.org at Osaka University on March 26, 2009

show such associations. The inverse association between isoflavone intake and risk of myocardial infarction was observed primarily among postmenopausal women.[51]

According to the national nutrition survey, mean fish intake for adult men and women was ≈80 g/d in the 1960s and 90 g/d between the 1970s and the 2000s.[52] Mean intake of beans was ≈70 g/d and did not change over time.[52]

Physical Activity and Its Trend

Physical activity was associated with a reduced risk of CHD mortality.[53] The multivariable hazard ratios of CHD mortality for the highest versus the second-lowest category of walking (≥1.0 versus 0.5 h/d) or sports participation (≥5 versus 1 to 2 h/wk) were ≈0.8 and 0.5, respectively.[53]

No robust data are available for long-term trends in physical activity. However, a decline in physical activity is suggested, particularly for men, because of the stable or declined energy intake,[52] the increased BMI,[29,45] the mechanization of the work environment, and motorization.[7]

Discussion

Japan is unique among developed countries in that, since the 1960s, it has had the lowest mortality from CHD, according to vital statistics[1,2] and population-based studies,[3–5] which has been further declining for both men and women.[8,9] Mean systolic blood pressure levels[7,9–11,13,29] and the prevalence of smoking[1,10,11,25] declined, but mean serum total cholesterol and triglyceride[7–11,29,37] levels increased for both men and women. The decline in CHD mortality is attributable to large declines in blood pressure levels and the prevalence of smoking, which may have offset the potentially adverse effects of increased total cholesterol levels during the past decades. High total cholesterol would need a longer incubation period to maximize the effect on CHD risk.[54,55]

Trends in CHD mortality and coronary risk factors have not been uniform and may vary by sex, age, and region. In the 2 largest metropolitan areas, Tokyo and Osaka, where 17% of the total Japanese population resides, the CHD mortality decline was small for men 30 to 49 years of age compared with those residing in the rest of Japan.[9]

The higher sustained cholesterol levels, together with a recent rise in diastolic blood pressure and declines in systolic blood pressure levels and the prevalence of smoking, may explain in part the slowed decline in CHD mortality in middle-aged urban men compared with rural men. Urban men have a higher fat intake than rural men (22% to 26% versus 19% of total energy for men 40 to 59 years of age)[10,11] and lower physical activity (1600 versus 1800 calories consumed per day).[56] According to an autopsy study,[57] the pathology of myocardial infarction among urban men was larger infarction associated with hypercholesterolemia-derived atherosclerosis of coronary arteries as also observed in Western populations, whereas for rural men, the pathology of myocardial infarction was smaller, disseminated infarction associated with hypertension-derived atherosclerosis of coronary arteries.

The annual CHD incidence rate for middle-aged Japanese was ≤2 per 1000 for men and ≤1 per 1000 for women; that for Americans was 5 to 6 per 1000 for men and 2 to 3 per 1000 for women.[58,59] The low CHD incidence for Japanese men and women is explained by more favorable lipid profiles and glucose metabolism, along with lower BMI levels. Lifestyle factors, including low total and saturated fat intakes[7,8,10,55,60] and high fish[50,52] and soy intakes[51,52] for men and women, as well as light to moderate alcohol intake[49,61] for men, may be major contributing factors.

There were sex, age, and area variations in trends in CHD incidence. The CHD incidence tripled among urban male employees 40 to 59 years of age between the 1960s and the 1990s, subsequently doubled for urban male residents 40 to 69 years of age between the 1980 and the 2000s, and increased by ≈50% for rural or semiurban male residents of all ages.[12] The number of CHD incident cases was too small to draw definite inferences from previous trend studies.[10–12] However, the CHD increase was consistent with findings of a Japanese migrant study that the incidence of CHD was higher among Japanese men living in Hawaii and California than among Japanese men living in Japan.[62] The gradient of CHD incidence corresponded to the difference in saturated fat intake and serum total cholesterol levels, supporting environmental effects on CHD risk.[62] For female residents and rural male residents, there was no material change in CHD incidence.[7,11–14]

The decline in CHD mortality, in conjunction with an increase or no change in CHD incidence in Japan, may be accounted for by improvements in medical treatment for CHD and/or decreased severity of CHD during the past decades. In fact, the number of emergency medical centers equipped with an intensive care unit or a cardiac care unit in Japan stood at 17 in 1978, 103 in 1989, and 201 in 2007.[1] In addition, the in-hospital case fatality rates at hospitals with cardiac care units declined by >50% between the early 1980s and the late 1990s, probably because of improvements in treatment, including thrombolytic therapy and percutaneous transluminal coronary angioplasty.[63]

There is no robust evidence on long-term changes in the severity of CHD. A series of autopsy studies showed a decline in the coronary atherosclerosis score for Japanese men and women between the 1960s and the 1980s,[64] suggesting that the severity of CHD may have declined in association with major declines in blood pressure levels and the prevalence of smoking.

The risk of CHD mortality and its incidence for Japanese women are half or lower than for Japanese men. The probable reason for the lower CHD risk among women is the lower coronary risk factors such as blood pressure levels, serum triglycerides, and the prevalence of smoking and diabetes mellitus and the higher levels of serum HDL cholesterol. Serum total cholesterol levels are lower in premenopausal women but higher in postmenopausal women compared with men of the same age group. However, the premenopausal lower total cholesterol levels may have a major impact on the sex difference in CHD because increased cholesterol levels after menopause probably would not be around long enough to lead to the development of CHD in many Japanese women.

The percentages of preventable CHD were 45% in men and 18% in women for control of smoking, 34% in men and 17% in women for control of hypertension, 5% in men and 8% in women for control of hypercholesterolemia (≥260 mg/dL), and 5% in men and 9% in women for control of diabetes mellitus. These percentages were estimated from the population-attributable risk percent[65] using data on hazard ratios (for current

Downloaded from circ.ahajournals.org at Osaka University on March 26, 2009

smoking, 2.5 in both men and women; for high blood pressure, 2 in men and 1.5 in women; for hypercholesterolemia, 3.5 in both men and women; and for diabetes, 1.5 in men and 3 in women) and prevalence of risk factors (for current smoking, 54% in men and 15% in women; for high blood pressure, 52% in men and 40% in women; for hypercholesterolemia, 2.0% in men and 3.4% in women; and for diabetes, 10% in men and 5% in women). Therefore, most of the male CHD cases (461 000 patients and 41 970 deaths in 2005)[1,66] and half of the female CHD cases (403 000 patients and 34 533 deaths in 2005)[1,66] in Japan would be preventable if these major coronary risk factors were controlled.

Conclusions

This review presented distinctive trends for the mortality from, incidence of, and risk factors for CHD in Japan. Although it is hard to predict future CHD trends in Japan, middle-aged men, especially in urban areas, may be the victims of an impending epidemic of CHD, as is the case in some developing countries.[67] The potential epidemic, although it should be confirmed by continued surveillance, is an important issue for both public health and clinical practice.

Disclosures

None.

References

1. Health and Welfare Statistics Association. Trends for national hygiene 2007 [in Japanese]. *J Health Welfare Stat.* 2007;34:47–54, 168–170.
2. WHO Collaborating Centre for Surveillance of Cardiovascular Disease. Global Cardiovascular Infobase. Available at: http://www.cvdinfobase.ca/. Accessed on July 1, 2007.
3. Verschuren WMM, Jacobs DR, Bloemberg BPM, Kromhout D, Menotti A, Aravanis C, Blackburn H, Buzina R, Dontas AS, Fidanza F, Karvonen MJ, Nedeljkovic S, Nissinen A, Toshima H. Serum total cholesterol and long-term coronary heart disease mortality in different cultures: twenty-five-year follow-up of the Seven Countries Study. *JAMA.* 1995;274:131–136.
4. Baba S, Ozawa H, Sakai Y, Terao A, Konishi M, Tatara K. Heart disease deaths in a Japanese urban area evaluated by clinical and police records. *Circulation.* 1994;89:109–115.
5. Saito I, Folsom AR, Aono H, Ozawa H, Ikebe T, Yamashita T. Comparison of fatal coronary heart disease occurrence based on population surveys in Japan and the USA. *Int J Epidemiol.* 2000;29:837–844.
6. Komachi Y, Iida M, Shimamoto T, Chikayama Y, Takahashi H, Konishi M, Tominaga S. Geographic and occupational comparisons of risk factors in cardiovascular diseases in Japan. *Jpn Cir J.* 1971;35:187–207.
7. Shimamoto T, Komachi Y, Inada H, Doi M, Iso H, Sato S, Kitamura A, Iida M, Konishi M, Nakanishi N, Terao A, Naito Y, Kojima S. Trends for coronary heart disease and stroke and their risk factors in Japan. *Circulation.* 1989;79:503–515.
8. Ueshima H, Tatara K, Asakura S. Declining mortality from ischemic heart disease and changes in coronary risk factors in Japan, 1956–1980. *Am J Epidemiol.* 1987;125:62–72.
9. Okayama A, Ueshima H, Marmot M, Elliott P, Choudhury SR, Kita Y. Generational and regional differences in trends of mortality from ischemic heart disease in Japan from 1969 to 1992. *Am J Epidemiol.* 2001;153:1191–1198.
10. Kitamura A, Iso H, Iida M, Naito Y, Sato S, Jacobs DR, Nakamura M, Shimamoto T, Komachi Y. Trends in the incidence of coronary heart disease and stroke and the prevalence of cardiovascular risk factors among Japanese men from 1963 to 1994. *Am J Med.* 2002;112:104–109.
11. Kitamura A, Sato S, Kiyama M, Imano H, Iso H, Okada T, Ohira T, Tanigawa T, Yamagishi K, Nakamura M, Shimamoto T, Iida M, Komachi Y. Trends in the incidence of coronary heart disease and stroke and their risk factors in Japan, 1964 to 2003: the Akita-Osaka Study. *J Am Coll Cardiol.* 2008;52:71–79.
12. Rumana N, Kita Y, Turin TC, Murakami Y, Sugihara H, Morita Y, Tomioka N, Okayama A, Nakamura Y, Abbott RD, Ueshima H. Trend of increase in the incidence of acute myocardial infarction in a Japanese population: Takashima AMI Registry, 1990–2001. *Am J Epidemiol.* 2008;167:1358–1364.
13. Kodama K, Sasaki H, Shimizu Y. Trend of coronary heart disease and its relationship to risk factors in a Japanese population: a 26-year follow-up: Hiroshima/Nagasaki study. *Jpn Circ J.* 1990;54:414–421.
14. Kubo M, Kiyohara Y, Kato I, Tanizaki Y, Arima H, Tanaka K, Nakamura H, Okubo K, Iida M. Trends in the incidence, mortality, and survival rate of cardiovascular disease in a Japanese community: the Hisayama Study. *Stroke.* 2003;34:2349–2354.
15. Kinjo K, Kimura Y, Shinozato, Tomori M, Komine Y, Kawazoe N, Takishita S, Fukiyama K, for the COSMO Group. An epidemiological analysis of cardiovascular diseases in Okinawa, Japan. *Hypertens Res.* 1992;15:111–119.
16. Nakamura M, Sato S, Shimamoto T. Improvement in Japanese clinical laboratory measurements of total cholesterol and HDL-cholesterol by the US Cholesterol Reference Method Laboratory Network. *J Atheroscler Thromb.* 2003;10:145–153.
17. Kono S, Ikeda M, Tokudome S, Mishizumi M, Kuratsune M. Smoking and mortalities from cancer, coronary heart disease and stroke in male Japanese physicians. *J Cancer Res Clin Oncol.* 1985;110:161–164.
18. Kiyohara Y, Ueda K, Fujishima M. Smoking and cardiovascular disease in the general population in Japan. *J Hypertens.* 1990;8(suppl):S9–S15.
19. Irie F, Sairenchi T, Iso H, Shimamoto T. Prediction of mortality from finding of annual health checkups utility for health care programs [in Japanese]. *Nippon Koshu Eisei Zasshi.* 2001;48:95–108.
20. Ueshima H, Choudhury SR, Okayama A, Hayakawa T, Kita Y, Kadowaki T, Okamura T, Minowa M, Iimura O. Cigarette smoking as a risk factor for stroke death in Japan: NIPPON DATA80. *Stroke.* 2004;35:1836–1841.
21. Baba S, Iso H, Mannami T, Sasaki S, Okada K, Konishi M, Tsugane S. Cigarette smoking and risk of coronary heart disease incidence among middle-aged Japanese men and women: the JPHC Study Cohort I. *Eur J Cardiovas Prev Rehab.* 2006;13:207–213.
22. Hirayama T. Passive smoking. *N Z Med J.* 1990;103:54.
23. Iso H, Date C, Yamamoto A, Toyoshima H, Watanabe Y, Kikuchi S, Koizumi A, Wada Y, Kondo T, Inaba Y, Tamakoshi A. Smoking cessation and mortality from cardiovascular disease among Japanese men and women: the JACC Study. *Am J Epidemiol.* 2005;161:170–179.
24. Sato I, Nishida M, Okita K, Nishijima H, Kojima S, Matsumura N, Yasuda H. Beneficial effect of stopping smoking on future cardiac events in male smokers with previous myocardial infarction. *Jpn Circ J.* 1992;56:217–222.
25. Ministry of Health and Welfare. *Smoking and Health: Committee Report on Smoking and Health Problems* [in Japanese]. Tokyo, Japan: Hoken Dojin Press; 2002.
26. van den Hoogen PC, Feskens EJ, Nagelkerke NJ, Menotti A, Nissinen A, Kromhout D. The relation between blood pressure and mortality due to coronary heart disease among men in different parts of the world. *N Engl J Med.* 2000;342:1–8.
27. Asian Pacific Cohort Studies Collaboration. Systolic blood pressure, diabetes and the risk of cardiovascular disease in the Asia-Pacific region. *J Hypertens.* 2007;25:1205–1213.
28. Iso H, Sato S, Kitamura A, Imano H, Kiyama M, Yamagishi K, Cui R, Tanigawa T, Shimamoto T. Metabolic syndrome and the risk of ischemic heart disease and stroke among Japanese men and women. *Stroke.* 2007;38:1744–1751.
29. *National Survey on Circulatory Disorders in 1980, 1990, and 2000* [in Japanese]. Tokyo, Japan: Ministry of Health, Labor and Welfare; 1983, 1993 and 2003.
30. Deleted in proof.
31. Deleted in proof.
32. Kitamura A, Iso H, Naito Y, Iida M, Konishi M, Folsom AR, Sato S, Kiyama M, Nakamura M, Sankai T, Shimamoto T, Komachi Y. High-density lipoprotein cholesterol and premature coronary heart disease in urban Japanese men. *Circulation.* 1994;89:2533–2539.
33. Cui R, Iso H, Toyoshima H, Date C, Yamamoto A, Kikuchi S, Kondo T, Watanabe Y, Koizumi A, Inaba Y, Tamakoshi A, for the JACC Study Group. Serum total cholesterol levels and risk of mortality from stroke and coronary heart disease in Japanese: the JACC Study. *Atherosclerosis.* 2007;194:415–420.
34. Okamura T, Tanaka H, Miyamatsu N, Hayakawa T, Kadowaki T, Kita Y, Nakamura Y, Okayama A, Ueshima H, for the NIPPON DATA80

Downloaded from circ.ahajournals.org at Osaka University on March 26, 2009

Research Group. The relationship between serum total cholesterol and all-cause or cause-specific mortality in a 17.3-year study of a Japanese cohort. *Atherosclerosis*. 2007;190:216–223.
35. Iso H, Naito Y, Sato S, Kitamura A, Okamura T, Sankai T, Shimamoto T, Iida M, Komachi Y. Serum triglycerides and risk of coronary heart disease among Japanese men and women. *Am J Epidemiol*. 2001;153: 490–499.
36. Ueshima H, Iida M, Shimamoto T, Konishi M, Tanigaki M, Nakanishi N, Takayama Y, Ozawa H, Kojima S, Komachi Y. High-density lipoprotein-cholesterol levels in Japan. *JAMA*. 1982;247:1985–1987.
37. Arai H, Yamamoto A, Matsuzawa Y, Saito Y, Yamada N, Oikawa S, Mabuchi H, Teramoto T, Sasaki J, Nakaya N, Itakura H, Ouchi Y, Horibe H, Kita T, for the Research Group on Serum Lipid Level Survey 2000 in Japan. Serum lipid survey and its recent trend in the general Japanese population in 2000. *J Atheroscler Thromb*. 2005;12:98–106.
38. Fujishima M, Kiyohara Y, Kato I, Ohmura T, Iwamoto H, Nakayama K, Ohmori S, Yoshitake T. Diabetes and cardiovascular disease in a prospective population survey in Japan: the Hisayama Study. *Diabetes*. 1996;45(suppl 3):S14–S16.
39. Tamaki J, Ueshima H, Hayakawa T, Choudhury SR, Kodama K, Kita Y, Okayama A, for the NIPPON DATA80 Research Group. Effect of conventional risk factors for excess cardiovascular death in men: NIPPON DATA80. *Circ J*. 2006;70:370–375.
40. Japan Ministry of Health, Labor and Welfare. The National Survey for Diabetes Mellitus 2002. Available at: http://wwwdbtk.mhlw.go.jp/toukei/kouhyo/indexkk_4_2.html. Accessed on July 1, 2007.
41. Ohmura T, Ueda K, Kiyahara Y, Kato I, Iwamoto H, Nakayama K, Nomiyama K, Ohmori S, Yoshitake T, Shinkawu A, Fujishima HM. Prevalence of type 2 (non-insulin-dependent) diabetes mellitus and impaired glucose tolerance in the Japanese general population: the Hisayama Study. *Diabetologica*. 1993;36:1198–1203.
42. Islam MM, Horibe H, Kobayashi F. Current trend in prevalence of diabetes mellitus in Japan, 1964–1992. *J Epidemiol*. 1999;9:155–162.
43. Cui R, Iso H, Toyoshima H, Date C, Yamamoto A, Kikuchi S, Kondo T, Watanabe Y, Koizumi A, Wada Y, Inaba Y, Tamakoshi A. Body mass index and mortality from cardiovascular disease among Japanese men and women: the JACC Study. *Stroke*. 2005;36:1377–1382.
44. Chei CL, Iso H, Yamagishi K, Inoue M, Tsugane S. Body mass index and weight change since 20 years of age and risk of coronary heart disease among Japanese: the Japan Public Health Center-Based Study. *Int J Obes (Lond)*. 2008;32:144–151.
45. Yoshiike N, Kaneda F, Takimoto H. Epidemiology of obesity and public health strategies for its control in Japan. *Asia Pac J Clin Nutr*. 2002; 11(suppl):S727–S731.
46. Iso H, Kitamura A, Shimamoto T, Sankai T, Naito Y, Sato S, Kiyama M, Iida M, Komachi Y. Alcohol intake and the risk of cardiovascular disease in middle-aged Japanese men. *Stroke*. 1995;26:767–773.
47. Kitamura A, Iso H, Sankai T, Naito Y, Sato S, Kiyama M, Okamura T, Nakagawa Y, Iida M, Shimamoto T, Komachi Y. Alcohol intake and premature coronary heart disease in urban Japanese men. *Am J Epidemiol*. 1998;147:59–65.
48. Nakamura Y, Kita Y, Iso H, Ueshima H, Okada K, Konishi M, Inoue M, Tsugane S. Alcohol consumption, alcohol-induced flushing and incidence of acute myocardial infarction among middle-aged men in Japan: Japan Public Health Center-based prospective study. *Atherosclerosis*. 2007;194: 512–516.
49. Kitamura A. Trends in alcohol intake among urban and rural Japanese populations [in Japanese]. *Nippon Koshu Eisei Zasshi*. 1996;43:142–152.
50. Iso H, Kobayashi M, Ishihara J, Sasaki S, Okada K, Kita Y, Kokubo Y, Tsugane S, for the JPHC Study Group. Intake of fish and n3 fatty acids and risk of coronary heart disease among Japanese: the Japan Public Health Center-Based (JPHC) Study Cohort I. *Circulation*. 2006;113: 195–202.
51. Kokubo Y, Iso H, Ishikawa J, Okada K, Inoue M, Tsugane S. The association of dietary intake of soy, beans and isoflavones with risk of cerebral and myocardial infarctions in the Japanese population: the Japan Public Health Center-Based (JPHC) Study Cohort I. *Circulation*. 2007; 116:2553–2562.
52. Matsumura Y. Nutrition trends in Japan. *Asia Pac J Clin Nutr*. 2001; 10(suppl):S40–S47.
53. Noda H, Iso H, Toyoshima H, Date C, Yamamoto A, Kikuchi S, Koizumi A, Kondo T, Watanabe Y, Wada Y, Inaba Y, Tamakoshi A. Walking and sports participation and mortality from coronary heart disease and stroke. *J Am Coll Cardiol*. 2005;46:1761–1767.
54. Law M, Wald N. Why heart disease is low in France: the time lag explanation. *BMJ*. 1999;318:1471–1476.
55. Ueshima H. Explanation for the Japanese paradox: prevention of increase in coronary heart disease and reduction in stroke. *J Atheroscler Thromb*. 2007;14:278–286.
56. Naito Y. Relationship between physical activity and health examination variables in male workers: new methods to assess physical activity and their applications to epidemiologic research [in Japanese]. *Nippon Koshu Eisei Zasshi*. 1994;41:706–719.
57. Konishi M, Iso H, Iida M, Naito Y, Sato S, Komachi Y, Shimamoto T, Doi M, Ito M. Trends for coronary heart disease and its risk factors in Japan: epidemiologic and pathologic studies. *Jpn Circ J*. 1990;54: 428–435.
58. Rosamond WD, Folsom AR, Chambless LE, Wang CH, for the ARIC Investigators, Atherosclerosis Risk in Communities. Coronary heart disease trends in four United States communities: the Atherosclerosis Risk in Communities (ARIC) study 1987–1996. *Int J Epidemiol*. 2001; 30(suppl 1):S17–S22.
59. McGovern PG, Jacobs DR Jr, Shahar E, Arnett DK, Folsom AR, Blackburn H, Luepker RV. Trends in acute coronary heart disease mortality, morbidity, and medical care from 1985 through 1997: the Minnesota Heart Survey. *Circulation*. 2001;104:19–24.
60. Okayama A, Ueshima H, Marmot MG, Nakamura M, Kita Y, Yamakawa M. Changes in total serum cholesterol and other risk factors for cardiovascular disease in Japan, 1980–1989. *Int J Epidemiol*. 1993;22: 1038–1047.
61. The INTERSALT Co-operative Research Group: appendix tables: centre-specific results by age and sex. *J Hum Hypertens*. 1989;3:331–407.
62. Robertson TL, Kato H, Rhoads GG, Kagan A, Marmot M, Syme SL, Grodon T, Worth RM, Belsky JL, Dock DS, Miyanishi M, Kawamoto S. Epidemiologic studies of coronary heart disease and stroke in Japanese men living in Japan, Hawaii and California: incidence of myocardial infarction and death from coronary heart disease. *Am J Cardiol*. 1977; 39:239–243.
63. Watanabe J, Iwabuchi K, Koseki Y, Fukuchi M, Shinozaki T, Miura M, Komaru T, Kagaya Y, Shirato K, Kitaoka S, Ishide N, Takishima T. Declining trend in the in-hospital case-fatality rate from acute myocardial infarction in Miyagi Prefecture from 1980 to 1999. *Jpn Circ J*. 2001;65: 941–946.
64. Konishi M, Komachi Y, Iso H, Iida M, Naito Y, Sato S, Kiyama M, Shimamoto T. Secular trends in atherosclerosis of coronary arteries and basal cerebral arteries in Japan: the Akita pathology. *Arteriosclerosis*. 1990;10:535–540.
65. Whittemore AS, Evans AS, Thompson WD, Kelsey JL. *Methods in Observational Epidemiology. Monographs in Epidemiology and Biostatistics*. Oxford, UK: Oxford University Press; 1996;26:37–39.
66. Statistics and Information Department, Minister's Secretariat, Ministry of Health, Labour and Welfare. *Patient Survey 2005*. Tokyo, Japan: Health and Welfare Statistics Association; 2005:73.
67. Reddy KS, Yusuf S. Emerging epidemic of cardiovascular disease in developing countries. *Circulation*. 1998;97:596–601.

KEY WORDS: coronary disease ■ mortality ■ risk factors ■ nutrition ■ exercise ■ follow-up studies ■ epidemiology

Downloaded from circ.ahajournals.org at Osaka University on March 26, 2009

Original Article

Metabolic Syndrome and the Risk of Ischemic Heart Disease and Stroke among Middle-Aged Japanese

Choy-Lye CHEI[1], Kazumasa YAMAGISHI[1], Takeshi TANIGAWA[1,2], Akihiko KITAMURA[3], Hironori IMANO[3], Masahiko KIYAMA[3], Shinichi SATO[4], and Hiroyasu ISO[5]

Limited information is available regarding risk of cardiovascular disease and trends for the metabolic syndrome in Asia. We examined the impact of the metabolic syndrome and its components on risk of cardiovascular disease among middle-aged Japanese according to four criteria. We followed 2,613 subjects from a rural Japanese community who participated in cardiovascular health examinations between 1990 and 1993. After 27,477 person-years of follow-up through 2003, there were 42 incidents of ischemic heart disease, 73 total strokes (54 ischemic and 18 hemorrhagic), and 115 total cases of cardiovascular disease. The metabolic syndrome was defined according to the National Cholesterol Education Program Adult Treatment Panel III (NCEP-ATPIII), American Heart Association/National Heart, Lung, and Blood Institute (AHA/NHLBI), International Diabetes Federation (IDF), and Japanese criteria. The multivariable hazard ratios (95%CI) associated with the metabolic syndrome based on NCEP-ATPIII criteria were 2.1 (1.1–4.0) for ischemic heart disease, 1.7 (1.0–2.7) for total stroke, 2.0 (1.2–3.5) for ischemic stroke, 1.1 (0.4–2.8) for hemorrhagic stroke, 2.0 (1.3–3.1) for ischemic cardiovascular disease, and 1.7 (1.2–2.5) for total cardiovascular disease. The population-attributable fractions of the metabolic syndrome based on NCEP-ATPIII criteria were 26–27% for ischemic heart disease and ischemic stroke and 20% for total cardiovascular disease. The metabolic syndrome based on AHA/NHLBI, IDF and Japanese criteria had weaker associations with risk of cardiovascular disease, and the association with risk of ischemic heart disease was not statistically significant. The metabolic syndrome based on NCEP-ATP III criteria predicted risks of ischemic heart disease, ischemic stroke and total cardiovascular disease, whereas that based on three other criteria predicted them less effectively. (*Hypertens Res* 2008; 31: 1887–1894)

***Key Words*: metabolic syndrome, ischemic heart disease, stroke, follow-up study, Japanese**

Introduction

The metabolic syndrome is associated with increased risks of both type 2 diabetes and cardiovascular disease (*1–8*). The criteria of metabolic syndrome defined by the Third Report of the National Cholesterol Educational Program Expert Panel on Detection, Evaluation, and Treatment of High Blood Cho-

From the [1]Department of Public Health Medicine, Graduate School of Comprehensive Human Sciences, and Institute of Community Medicine, University of Tsukuba, Tsukuba, Japan; [2]Department of Public Health, Social Medicine and Medical Informatics, Ehime University Graduate School of Medicine, Toon, Japan; [3]Osaka Medical Center for Health Science and Promotion, Osaka, Japan; [4]Chiba Prefectural Institute of Public Health, Chiba, Japan; and [5]Public Health, Department of Social and Environmental Medicine, Graduate School of Medicine, Osaka University, Suita, Japan.

This study was supported in part by a Grant-in-Aid for Scientific Research (A: 14207019 and B: 19390174) from the Japanese Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology.

Address for Reprints: Hiroyasu Iso, M.D., Public Health, Department of Social and Environmental Medicine, Graduate School of Medicine, Osaka University, 2-2 Yamadaoka, Suita 565-0871, Japan. E-mail: fvgh5640@mb.infoweb.ne.jp

Received May 8, 2008; Accepted in revised form August 4, 2008.

lesterol in Adults (Adult Treatment Panel III; NCEP-ATP III) (*9*) have been widely accepted. Recently, the American Heart Association (AHA) and the National Heart, Lung, and Blood Institute (NHLBI) provided new guidelines for the diagnosis of the metabolic syndrome (*10*). The definition adopted by both NCEP-ATP III and AHA/NHLBI was based on five commonly measured clinical criteria whereas the criteria proposed by the International Diabetes Federation (IDF) (*11*) and the new Japanese definition (*12*) were based on a precondition for the presence of abdominal obesity.

A recent prospective study in Japan has shown that the metabolic syndrome and its components, defined by modified NCEP-ATP III criteria, were associated with an increased risk of ischemic cardiovascular disease (*13*). Another Japanese study of diabetic patients showed an increased risk of cardiovascular disease associated with the metabolic syndrome based on NCEP-ATPIII but not IDF criteria (*14*, *15*). To our knowledge, there are no studies that have examined whether the criteria of the metabolic syndrome can accurately predict the risk of incident cardiovascular disease among the general Japanese population. Limited prospective studies have been undertaken in Asian populations (*13*, *16–18*).

In the present study, we examined the association between the metabolic syndrome and risks of ischemic heart disease and stroke in Japanese men and women according to four different criteria of the metabolic syndrome.

Methods

Study Populations

The subjects were residents of Kyowa, a rural farming community in the Ibaraki Prefecture, mid-eastern Japan (census population in 1990 of ages 40–69: n=6,520), where annual cardiovascular health examinations have been conducted since 1981 (*19*). Residents aged ≥40 years old were invited annually by the municipal government to be assessed for several cardiovascular risk factors as a part of community stroke prevention program. Overall participation rates were approximately 60–70% from 1990 to 2003.

In the present study, we included a total of 2,660 subjects (998 men and 1,662 women) aged 40–69 who participated in cardiovascular health examinations between 1990 and 1993 that included waist circumference measurements. After exclusion of persons with a history of ischemic heart disease (n=15) or stroke (n=32) at baseline, a total of 2,613 subjects were followed-up through 2003 to examine the association between the metabolic syndrome and risks of ischemic heart disease and stroke. There were 17 individuals (0.7%) who moved out of the community during the follow-up period, according to municipal emigration office records. Forty-three (1.6%) people died during the follow-up. These cases were censored at the date of emigration or death, respectively. The median follow-up period was 10.5 years.

The study was approved by the Medical Ethics Committee of the University of Tsukuba.

Endpoint Determination

The follow-up was conducted by annual cardiovascular risk surveys in order to obtain information about ischemic heart disease and stroke incidents from the participants. For non-participants, these endpoints were ascertained by mailed questionnaire and by the use of death certificates. From death certificates, cases with stroke as an underlying cause of death ("International Classification of Diseases," 9th ed., pp. 410–414, 428, 429 and 430–438) were selected. We also used national insurance claims, ambulance records, reports by local physicians and public health nurses for case ascertainment. To confirm the diagnosis, all living patients were telephoned or visited to obtain their medical history and records. For deaths, we obtained information from families and reviewed medical records.

The criteria for ischemic heart disease were modified from those of the WHO Expert Committee (*20*). Definite myocardial infarctions were indicated by typical chest pain, lasting for ≥30 min with the appearance of abnormal and persistent Q or QS waves on the electrocardiogram, changes in cardiac enzyme activity, or both. Probable myocardial infarctions were indicated by typical chest pain for which the findings of electrocardiogram or enzyme activity were not available. Angina pectoris was defined as repeated episodes of chest pain during effort, especially when walking, usually disappearing rapidly after the cessation of effort or use of sublingual nitroglycerin. Sudden cardiac death was defined as death within 1 h of symptom onset, a witnessed cardiac arrest, or abrupt collapse not preceded by more than 1 h of symptoms. Ischemic heart disease included definite or probable myocardial infarction, angina pectoris, and sudden cardiac death.

Stroke was defined as a focal neurological disorder with rapid onset that persisted at least 24 h or until death. The determination of incident stroke was based on clinical criteria (*21*). Stroke events were further subclassified as subarachnoid hemorrhage, intraparenchymal hemorrhage, ischemic stroke (non-embolic or embolic), primarily based on CT and/or MRI (22). Stroke cases without the imaging studies were subclassified according the clinical criteria (*21*) as subarachnoid hemorrhage, intraparenchymal hemorrhage, ischemic stroke, or stroke of undetermined type. The proportion of stroke cases confirmed by CT or MRI was 92% for total stroke, 100% for subarachnoid hemorrhage, 86% for intraparenchymal hemorrhage, and 94% for ischemic stroke.

A panel of three or four physician-epidemiologists made the final diagnosis of ischemic heart disease and stroke, blinded to the data of risk factor surveys.

Measurements

Height in stocking feet and weight in light clothing were measured. Body mass index was calculated as weight (kg) divided

by square of height (m^2). Well-trained observers measured the waist circumference of the subjects at the level of the umbilicus to the nearest 1 cm while subjects were standing and breathing normally. Blood pressure was measured by well-trained technicians using mercury sphygmomanometers on the right arm of seated participants after at least 5 min of rest. Blood was drawn from seated participants into a plain, siliconized glass tube, and serum was separated. Serum glucose was measured by the hexokinase method. Fasting was not required. The distribution of time since the last meal was <2 h (40%), 2 h (35%), 3–7 h (19%) and ≥8 h (6%).

An interview was conducted to ascertain daily alcohol intake, number of cigarettes smoked per day, use of medication for diabetes mellitus and hypertension, and past history of stroke and ischemic heart disease. Persons who smoked at least 1 cigarette/d were defined as current smokers, and those who had not smoked for ≥3 months were defined as former smokers.

Serum total cholesterol and high-density lipoprotein (HDL)-cholesterol after heparin-manganese precipitation were measured by the Liebermann-Burchard direct method using the Autoanalyzer II (Technicon, Tarrytown, USA) at the Osaka Medical Center for Health Science and Promotion. The laboratory has been standardized under the CDC-NHLBI Lipid Standardization Program, Centers for Disease Control and Prevention, Atlanta, and successfully met the criteria for precision and accuracy of triglyceride and total and HDL-cholesterol measurements as an international member of the US National Cholesterol Reference Method Laboratory Network (CRMLN) (*23*).

Definition of the Metabolic Syndrome

According to the modified NCEP-ATPIII definition (*9*), subjects who had three or more of the following criteria were identified as having the metabolic syndrome: 1) triglycerides ≥1.69 mmol/L (≥150 mg/dL), 2) HDL cholesterol <1.03 mmol/L (<40 mg/dL) for men and <1.29 mmol/L (<50 mg/dL) for women, 3) blood pressure ≥130/85 mmHg, or use of antihypertensives, 4) fasting glucose ≥6.11 mmol/L (≥110 mg/dL) or non-fasting glucose ≥7.77 mmol/L (≥140 mg/dL), or on treatment, or 5) abdominal obesity—modified waist circumference cutoffs (≥90 cm for men and ≥80 cm for women) were used (*24*) instead of the waist circumference cutoffs (>102 cm for men and >88 cm for women) proposed in the existing NCEP-ATPIII criteria.

According to the AHA/NHLBI definition (*10*), the metabolic syndrome was defined as the presence of three or more of the following: 1) elevated triglyceride level ≥1.69 mmol/L (≥150 mg/dL) or on treatment, 2) reduced HDL-cholesterol <1.03 mmol/L (<40 mg/dL) for men and <1.29 mmol/L (<50 mg/dL) for women, or on treatment, 3) elevated blood pressure ≥130/85 mmHg, or use of antihypertensive medication, 4) elevated fasting glucose ≥5.56 mmol/L (≥100 mg/dL) or non-fasting glucose ≥7.22 mmol/L (≥130 mg/dL), or on treatment, or 5) abdominal obesity, waist circumference ≥90 cm for men and ≥80 cm for women.

According to the new IDF definition (*11*) (the IDF consensus worldwide definition of the metabolic syndrome [article online]: available from http://www.idf.org/webdata/docs/IDF_Meta_def_final.pdf/), Japanese people were defined as having the metabolic syndrome if the subjects had abdominal obesity (waist circumference cutoffs ≥90 cm for men and ≥80 cm for women) plus two or more of the following risk factors: 1) elevated triglyceride level ≥1.69 mmol/L (≥150 mg/dL) or on treatment, 2) low HDL cholesterol <1.03 mmol/L (<40 mg/dL) for men and <1.29 mmol/L (<50 mg/dL) for women or on treatment, 3) high blood pressure ≥130/85 mmHg or use of antihypertensives, or 4) high fasting glucose ≥5.56 mmol/L (≥100 mg/dL) or non-fasting glucose ≥7.22 mmol/L (≥130 mg/dL) or on treatment.

According to the Japanese definition (*12*), the metabolic syndrome was identified if subjects had abdominal obesity (waist circumference ≥85 cm for men and ≥90 cm for women), in addition to two or more of the following criteria: 1) triglyceride level ≥1.69 mmol/L (≥150 mg/dL) or on treatment, 2) HDL cholesterol <1.03 mmol/L (<40 mg/dL) or on treatment, 3) blood pressure ≥130/85 mmHg or use of antihypertensive medication, or 4) fasting glucose ≥6.11 mmol/L (≥110 mg/dL) or non-fasting glucose ≥7.77 mmol/L (≥140 mg/dL) or on treatment.

Statistical Analysis

Age-adjusted mean values or the prevalence of metabolic syndrome, its components and other cardiovascular risk factors were compared between incident cases of ischemic heart disease and stroke and non-cases using the analysis of covariance or χ^2 tests.

Person-years were calculated as the sum of individual follow-up time until the occurrence of incident ischemic heart disease, stroke, death, emigration, or until the end of 2003. The hazard ratios of ischemic heart disease and stroke and the respective 95% confidence intervals (CI) were calculated with reference to the risk of individuals without the metabolic syndrome using the Cox proportional hazards model. The results were adjusted for age (years), and other potential confounding variables such as smoking status (never, former, and current smokers), alcohol intake category (never, former, and current <46, 46–68 and ≥69 g/d ethanol), time since last meal (<2, 2, 3–7, and ≥8 h), and total serum cholesterol levels (mmol/L). The proportional hazards assumption was tested using an interaction terms of time by metabolic syndrome and was not violated for each analysis. We also calculated the population attributable fraction (PAF) to examine the contribution of the metabolic syndrome to risk of cardiovascular disease using multivariable hazard ratios of statistical significance and the proportions of cases in each categories (*25*). PAF was estimated as Pd × (HR − 1)/HR, where Pd is the proportion of cases falling into the metabolic syndrome category

Table 1. Sex-Specific Baseline Characteristics of Cardiovascular Disease Cases and Non-Cases among Japanese Aged 40–69 Years

	Ischemic heart disease	Total stroke	Ischemic stroke	Hemorrhagic stroke	Ischemic cardiovascular disease	Total cardiovascular disease	Non-cases
Men							
n	28	31	26	5	52	60	908
Age, years	59.5±2*	60.2±2†	60.0±2*	61.6±4	59.6±1*	59.9±1‡	55.6±0.3
Systolic blood pressure, mmHg	138±3	146±3‡	147±3‡	139±7	141±2‡	141±2‡	134±0.5
Diastolic blood pressure, mmHg	82±2	84±2*	84±2	85±5	83±2*	83±1	80±0.3
Use of antihypertensive medication, %	32*	18	19	14	25	23	17
High blood pressure, %	47†	34	34	34	39*	36*	24
Body mass index, kg/m^2	23.5±0.5	23.6±0.5	23.8±0.5	22.6±1.3	23.7±0.4	23.5±0.4	23.7±0.1
Waist circumference, cm	82.9±1.5	84.0±1.4	85.1±1.6	78.3±3.5	84.4±1.1	83.5±1.0	84.0±0.3
Waist circumference (≥85 cm), %	42	50	53	38	49	46	49
Waist circumference (≥90 cm), %	24	41*	41	38	34	32	24
Serum total cholesterol, mmol/L	5.13±0.16	4.87±0.16	4.97±0.17	4.35±0.39	5.06±0.12	5.00±0.11	4.96±0.03
Hypercholesterolemia, %	15	14	17	2	16	16	20
Serum triglycerides, mmol/L	2.13±0.21	1.82±0.20	1.96±0.21	1.13±0.49	2.07±0.15	1.95±0.14	1.79±0.04
Hypertriglyceridemia, %	49	40	47	1	50	43	42
Serum HDL-cholesterol, mmol/L	1.25±0.07	1.36±0.06	1.33±0.07	1.49±0.16	1.29±0.05	1.33±0.05	1.33±0.01
Low HDL-cholesterol, %	10	16	19	1	15	13	19
Serum glucose, mmol/L	8.16±0.45*	8.90±0.41‡	9.09±0.44‡	7.79±0.99	8.61±0.33‡	8.46±0.31‡	7.02±0.08
Glucose abnormality, % (≥6.11mmol/L)	6	28‡	30‡	19	18‡	17‡	7
Current smokers, %	59	66	67	62	61	61	53
Ethanol intake, g/d	28.0±4.6	25.4±4.3	26.9±4.7	17.1±10.8	27.8±3.4	27.1±3.1	22.9±0.8
Women							
n	14	42	28	13	40	55	1,590
Age, years	65.6±2‡	62.9±1‡	63.0±2‡	62.2±2†	63.9±1‡	63.6±1‡	54.8±0.2
Systolic blood pressure, mmHg	130±4	136±3*	135±3	139±4*	133±3	134±2	130±0.4
Diastolic blood pressure, mmHg	75±3	79±2	77±2	83±3*	77±2	78±1	77±0.3
Use of antihypertensive medication, %	21	30	35	21	31*	28	19
High blood pressure, %	35	34	39	28	38*	35	24
Body mass index, kg/m^2	24.4±0.8	25.5±0.5†	25.7±0.6†	25.4±0.9	25.3±0.5†	25.3±0.4‡	23.8±0.1
Waist circumference, cm	84.4±2.5	84.1±1.4*	84.7±1.7*	82.9±2.6	84.6±1.5*	84.0±1.3*	81.0±0.2
Waist circumference (≥90 cm), %	41*	27	29	25	33*	29*	18
Waist circumference (≥80 cm), %	64	56	34	36	65	59	55
Serum total cholesterol, mmol/L	5.41±0.25	5.07±0.15	5.02±0.18	5.15±0.26	5.18±0.15	5.19±0.13	5.26±0.02
Hypercholesterolemia, %	34	22	22	24	27	27	31
Serum triglycerides, mmol/L	1.52±0.23	1.47±0.13	1.49±0.16	1.46±0.24	1.49±0.14	1.48±0.12	1.47±0.02
Hypertriglyceridemia, %	40	43*	46*	40	42	41*	29
Serum HDL-cholesterol, mmol/L	1.32±0.09	1.40±0.05	1.40±0.06	1.40±0.09	1.38±0.05	1.39±0.05	1.46±0.01
Low HDL-cholesterol, %	61*	41	44	36	50*	45*	32
Serum glucose, mmol/L	7.11±0.50	6.96±0.29	7.12±0.36	6.42±0.52	6.90±0.30	6.83±0.26	6.42±0.05
Glucose abnormality, % (≥6.11 mmol/L)	12	15†	16†	7	13†	13‡	4
Current smokers, %	8	8	8	9	9	8	5
Ethanol intake, g/d	0.4±1.4	2.2±0.8	2.5±1.0	1.8±1.5	1.9±0.9	1.8±0.7	1.1±0.1

Values are mean±SEM, or proportions, adjusted for age. Serum triglycerides and glucose values were also adjusted for time since last meal. Test for significance from non-cases: *$p<0.05$, †$p<0.01$, ‡$p<0.001$. HDL, high-density lipoprotein.

Table 2. Hazard Ratios (HR), Population Attributable Fraction (PAF), and 95% Confidence Interval (CI) of Cardiovascular Disease Associated with the Metabolic Syndrome in Japanese Aged 40–69 Years

Metabolic syndrome	NCEP-ATP III criteria		AHA/NHLBI criteria		IDF criteria		Japanese criteria	
	No	Yes	No	Yes	No	Yes	No	Yes
No. at risk	1,808	805	1,750	863	1,919	694	2,174	439
Person-years	18,999	8,478	18,373	9,104	20,142	7,336	22,838	4,639
Ischemic heart disease								
No. of cases	20	22	20	22	25	17	30	12
Age-adjusted HR (95% CI)	1.0	1.9 (1.1–3.6)*	1.0	1.7 (0.9–3.2)	1.0	1.4 (0.8–2.7)	1.0	1.6 (0.8–3.1)
Multivariable HR (95% CI)	1.0	2.1 (1.1–4.0)*	1.0	1.9 (1.0–3.5)	1.0	1.8 (0.9–3.4)	1.0	1.1 (0.5–2.2)
PAF (95% CI), %		27 (−0.5–48)		—		—		—
Total stroke								
No. of cases	38	35	37	36	43	30	50	23
Age-adjusted HR (95% CI)	1.0	1.6 (1.0–2.6)*	1.0	1.5 (1.0–2.4)	1.0	1.5 (0.9–2.4)	1.0	1.9 (1.1–3.1)*
Multivariable HR (95% CI)	1.0	1.7 (1.0–2.7)*	1.0	1.6 (1.0–2.5)	1.0	1.6 (1.0–2.7)	1.0	1.8 (1.1–3.1)*
PAF (95% CI), %		19 (−1–35)		—		—		14.0
Ischemic stroke								
No. of cases	26	28	26	28	29	25	35	19
Age-adjusted HR (95% CI)	1.0	1.9 (1.1–3.3)*	1.0	1.7 (1.0–2.9)	1.0	1.9 (1.1–3.2)*	1.0	2.2 (1.3–3.9)†
Multivariable HR (95% CI)	1.0	2.0 (1.2–3.5)*	1.0	1.8 (1.0–3.1)*	1.0	2.2 (1.2–3.9)†	1.0	2.0 (1.1–3.6)*
PAF (95% CI), %		26 (2–44)		23 (−3–42)		25 (4–42)		18 (−0.6–33)
Hemorrhagic stroke								
No. of cases	11	7	10	8	13	5	14	4
Age-adjusted HR (95% CI)	1.0	1.1 (0.4–2.9)	1.0	1.2 (0.5–3.2)	1.0	0.8 (0.3–2.3)	1.0	1.2 (0.4–3.5)
Multivariable HR (95% CI)	1.0	1.1 (0.4–2.8)	1.0	1.2 (0.5–3.2)	1.0	0.7 (0.3–2.2)	1.0	1.4 (0.5–4.6)
PAF (95% CI), %		—		—		—		—
Ischemic cardiovascular disease								
No. of cases	44	48	44	48	51	41	62	30
Age-adjusted HR (95% CI)	1.0	1.9 (1.3–2.9)†	1.0	1.7 (1.1–2.6)*	1.0	1.7 (1.1–2.6)*	1.0	2.0 (1.3–3.0)†
Multivariable HR (95% CI)	1.0	2.0 (1.3–3.1)†	1.0	1.8 (1.2–2.7)†	1.0	2.0 (1.3–3.2)†	1.0	1.5 (1.0–2.4)
PAF (95% CI), %		26 (8–41)		23 (4–38)		23 (7–36)		—
Total cardiovascular disease								
No. of cases	59	56	58	57	68	47	81	34
Age-adjusted HR (95% CI)	1.0	1.7 (1.2–2.4)†	1.0	1.5 (1.1–2.2)*	1.0	1.5 (1.0–2.1)*	1.0	1.7 (1.1–2.5)*
Multivariable HR (95% CI)	1.0	1.7 (1.2–2.5)†	1.0	1.6 (1.1–2.3)*	1.0	1.6 (1.1–2.4)*	1.0	1.4 (0.9–2.1)
PAF (95% CI), %		20 (4–33)		18 (1–31)		16 (2–28)		—

*$p<0.05$, †$p<0.01$. Multivariable HR adjusted for age, time since last meal, cigarette smoking, alcohol intake and serum total cholesterol.

and HR is hazard ratio in that category. The Greenland formula was used to calculate 95% CI (*26*).

SAS statistical software (version 9.13; SAS Institute Inc., Cary, USA) was used for the analyses, and $p<0.05$ was regarded as statistically significant

Results

After 27,477 person-years of follow-up, we documented 42 incident cases of ischemic heart disease (1.5 per 1,000 person-years), 73 incident cases of total stroke (2.7 per 1,000 person-years), 54 incident cases of ischemic stroke (2.0 per 1,000 person-years), 18 incident cases of hemorrhagic stroke (0.7 per 1,000 person-years), 92 incident cases of ischemic cardiovascular disease (3.4 per 1,000 person-years), and 115 incident cases of total cardiovascular disease (4.2 per 1,000 person-years).

Table 1 compares age-adjusted values and proportions of components of the metabolic syndrome and other cardiovascular risk factors between incident cases and non-cases of cardiovascular disease. Compared with non-cases, cases with ischemic heart disease were older, more hypertensive, smoked more, and had higher mean serum total cholesterol, serum triglycerides, and serum glucose levels, and lower mean HDL-cholesterol levels among both men and women. Compared with non-cases, individuals who suffered from ischemic stroke were older, more hypertensive, smoked more, and had higher mean serum triglycerides and serum glucose

Table 3. Multivariable Hazard Ratios of Ischemic Cardiovascular Disease According to the Number of Components of the Metabolic Syndrome, Stratified by the Presence of Abdominal Obesity

Metabolic syndrome	Abdominal obesity (−)			Abdominal obesity (+)		
	No. of components except abdominal obesity			No. of components except abdominal obesity		
	0	1	2+	0	1	2+
NCEP-ATP III criteria						
No. at risk	415	560	495	126	355	662
Person-years	4,392	5,801	5,145	1,354	3,785	7,001
Ischemic cardiovascular disease						
No. of cases	3	16	24	2	6	41
Multivariable HR (95% CI)	1.0	2.4 (0.7–8.4)	3.3 (1.0–11.2)	2.0 (0.3–11.9)	1.6 (0.4–6.6)	5.1 (1.6–16.9)†
AHA/NHLBI and IDF criteria						
No. at risk	378	552	540	113	336	694
Person-years	3,996	5,719	5,623	1,221	3,583	7,336
Ischemic cardiovascular disease						
No. of cases	2	16	25	1	7	41
Multivariable HR (95% CI)	1.0	3.4 (0.8–14.8)	4.3 (1.0–18.3)*	1.5 (0.1–16.3)	2.8 (0.6–13.7)	6.5 (1.6–27.5)*
Japanese criteria						
No. at risk	567	767	499	67	274	439
Person-years	5,948	8,079	5,255	725	2,830	4,639
Ischemic cardiovascular disease						
No. of cases	5	17	28	2	10	30
Multivariable HR (95% CI)	1.0	1.6 (0.6–4.5)	3.4 (1.3–8.9)*	2.4 (0.5–12.2)	2.2 (0.7–6.6)	3.4 (1.3–9.0)*

*$p<0.05$, †$p<0.01$. Multivariable HR adjusted for age, time since last meal, cigarette smoking, alcohol intake and serum total cholesterol. HR, hazard ratio; CI, confidence interval.

levels among both men and women.

The hazard ratios of the metabolic syndrome and cardiovascular disease are shown in Table 2. The metabolic syndrome based on NCEP-ATP III criteria was significantly associated with risks of ischemic heart disease, total stroke, ischemic stroke, ischemic cardiovascular disease, and total cardiovascular disease but was not associated with hemorrhagic stroke. The respective multivariable hazard ratio (95% CI) associated with the metabolic syndrome was 2.1 (1.1–4.0), 1.7 (1.0–2.7), 2.0 (1.2–3.5), 2.0 (1.3–3.1), 1.7 (1.2–2.5) and 1.1 (0.4–2.8). Based on AHA/NHLBI and IDF criteria, we found similar or weaker associations with risks of ischemic stroke, ischemic cardiovascular disease, and total cardiovascular disease, and no significant association with total stroke, hemorrhagic stroke or ischemic heart disease. Using the Japanese criteria, the metabolic syndrome was only significantly associated with risks of total and ischemic strokes; the multivariable hazard ratio (95% CI) was 1.8 (1.1–3.1) and 2.0 (1.1–3.6), respectively.

The PAFs of ischemic heart disease, total stroke, ischemic stroke, ischemic cardiovascular disease, and total cardiovascular disease were between 19% and 27% for the metabolic syndrome based on NCEP-ATP III criteria. The respective PAFs were between 18% and 23% based on AHA/NHLBI criteria and between 16% and 25% based on IDF criteria. The PAFs of total and ischemic strokes for the metabolic syndrome were between 14% and 18% based on Japanese criteria.

We also analyzed associations of the metabolic syndrome components based on the four criteria and risks of ischemic cardiovascular disease, stratified by the presence of abdominal obesity (Table 3). The multivariate hazard ratio of ischemic cardiovascular disease according to NCEP-ATP III criteria was 3.3 (1.0–11.2) in non-abdominal obese persons with at least two risk factors and 5.1 (1.6–16.9) in abdominal obese persons with at least two risk factors. The respective hazard ratios were 4.3 (1.0–18.3) and 6.5 (1.6–27.5), according to AHA/NHLBI and IDF criteria, and 3.4 (1.3–8.9) and 3.4 (1.3–9.0), according to the Japanese criteria.

Discussion

The metabolic syndrome based on NCEP-ATP III criteria was associated with 2-fold increased risks of ischemic heart disease, ischemic stroke, and total cardiovascular disease, whereas the metabolic syndrome based on AHA/NHLBI, IDF, and Japanese criteria had weaker associations with risk of cardiovascular disease, and the association with risk of ischemic heart disease was not statistically significant. The population attributable fraction of ischemic stroke was lower for the metabolic syndrome based on Japanese criteria than for that based on other criteria. Our results were consistent